

今日のトピック 豪州の金融政策は11会合連続の据え置き (2017年8月) 堅調な景気は豪ドルにとって追い風

ポイント1 政策金利は現状維持 市場予想通り1.50%に決定

- 豪州準備銀行 (RBA) は8月1日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置くことを決定しました。11会合連続の据え置きです。ブルームバーグ社の集計によれば、対象24名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。

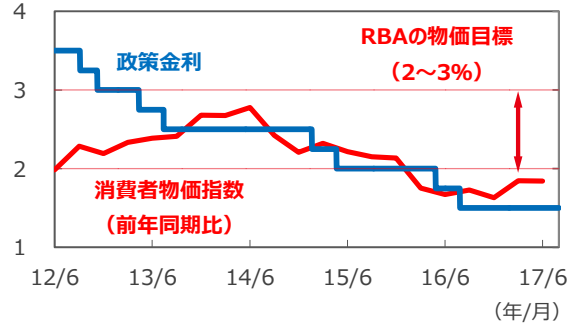
ポイント2 当面、据え置きの見通し 景気、物価は中銀の想定通り堅調

- 景気については、資源セクターの調整がほぼ一巡し、企業を取り巻く環境は改善しつつあるとの見方を維持しました。雇用は月を追うに従って増加の勢いを強めていると評価しています。
- インフレ率は、目標レンジの下限である+2%をやや下回っていますが、RBAは経済成長の加速に伴い、今後緩やかに高まると予想しています。
- RBAは、豪州経済の中期的な成長率を+3%程度と見ています。ただ、最近の豪ドル高を受け、経済見通しが想定を下回る可能性を指摘しました。
- 景気や物価、為替の評価に加え、懸念していた住宅市場過熱に鎮静化の徴候との判断を踏まえ、金融政策は当面、据え置かれる見通しです。

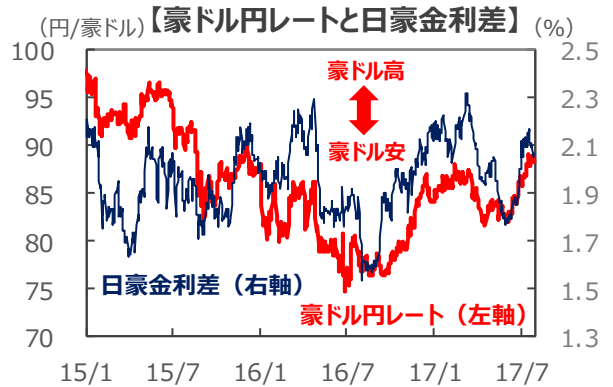
今後の展開 豪州通貨は底堅い展開へ

- 金融政策決定会合直後の豪ドル相場は、主要通貨に対して小幅な下落となりました。会合直後に公表された声明文で、豪ドル高が景気、物価を下げさせざるリスクについて言及されたためと考えられます。
- 先行きについては、①日豪金融政策の方向性の違い (RBAは中立維持の公算大、日銀は緩和姿勢を継続)、②豪州の景気や国際収支の改善、③鉄鉱石や石炭価格の持ち直しなどから、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見込みです。

(%) 【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2017年4-6月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2017年8月1日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2015年1月2日～2017年7月31日、為替は2017年8月1日まで。ただし、2017年8月1日は日本時間14時時点のレート。
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年7月21日 好調な豪州経済 資源価格の上昇もあり、豪ドルは堅調な展開 2017年7月 4日 豪州の金融政策は10会合連続の据え置き (2017年7月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。